

観戦・鑑賞のための「遠征」に関する分析

公益財団法人統計情報研究開発センター 坂部 裕美子

昨今、「居住地を離れてスポーツ観戦や公演鑑賞に出向くこと」は「遠征」という単語で呼ばれるようになり、JR 東海が「遠征向け」の旅行パックを発売するほど広く認識されている。しかし、数多の観戦者・鑑賞者の中で、実際に「遠征」に行く人は一部に限られると考えられる。この、存在は広く知られているが、具体的にどの程度いるのか推計されたことが全くない「遠征」の実態について、マイクロデータを使って分析する。

キーワード：マイクロデータ、旅行、社会生活基本調査、
旅行・観光消費動向調査

孤立無業者（SNEP）の生活時間をめぐるオーダーメイド集計の設計・取得・分析

多摩大学 久保田 貴文

社会生活基本調査のオーダーメイド集計を用いて、孤立無業者（SNEP：20～59歳の未婚・無業で、普段家族以外との接触がほとんどない者）の生活時間を都道府県別・性別に把握した。SNEPは複数条件のクロスで定義されるため公表統計表には存在せず、集計仕様をどう設計し取得したかを報告の中心に据える。分析では、食事の総時間に占める一人での食事時間の割合に地域差がみられ、とくに男性で顕著であった。あわせて集計設計上の制約と、オンサイト利用との使い分けについて述べる。

キーワード：孤立無業者（SNEP）、オーダーメイド集計、社会生活基本調査、生活時間、地域差

東京における居住セグリゲーションの 垂直・水平次元

福岡工業大学 上杉 昌也

居住者の社会階層による空間的分化（セグリゲーション）は都市における不平等の一形態であり、本研究は高層化が進む東京 23 区を対象に、共同住宅の居住階に沿った社会階層の分化と、その 2000 年から 2015 年にかけての変化を分析した。国勢調査の調査票情報を用いた分析の結果、東京におけるこの期間の変化は、垂直的な分化の様な拡大ではなく、高層階に局在する職業構成の選択的な再編としてとらえることができ、その傾向には地域差も認められた。

キーワード：垂直的セグリゲーション、居住階、高層化、国勢調査、東京

国勢調査を用いた外国籍者の居住地選択の分析 ——有利な近隣への居住に着目して

大阪公立大学 金 希相

近年、外国籍者の定住化が進む一方、依然として多くの人びとが民間賃貸住宅に居住しており、住宅市場における入居差別も指摘されている。本報告では、入居差別を理解するための基礎作業として、社会経済的に有利な近隣地域への居住に着目する。具体的には、2020年国勢調査の調査票情報を用いて、有利な近隣への居住確率に関連する要因と、その関連の大きさが国籍グループによってどのように異なるのかを検証する。

キーワード：国勢調査、外国籍者、居住地選択、近隣地域

コーホート別・年齢別出生率と コーホート合計特殊出生率の推計

中央大学 和田 光平

コーホート合計特殊出生率（CTFR）は世代ごとの出生行動を示す重要な統計指標であるが、その計算に必要な母親のコーホート（生年）別・年齢別出生数が2009年以降しか公表されていない。そこで公的統計マイクロデータ（『人口動態調査』出生票）を用いて、1974～2008年のコーホート別・年齢別出生数を推計し、厚生労働省による期間別・年齢別出生率からの近似や、移動平均などによらず、出生票に基づくこの推計値から直接、わが国のCTFRを初めて試算した。その結果、1970年代後半から1980年代前半生まれのCTFRの一時的な上昇なども確認された。

キーワード：コーホート合計特殊出生率、『人口動態調査』、レキシス図、
丙午、分母人口

組成データ解析の手法に基づく 教育用公的統計一般用ミクロデータの作成

立正大学 高部 勲

公的統計ミクロデータ活用の環境整備が整ってきている中で、教育用の擬似的なデータの必要性が高まっている。こうした状況を踏まえつつ、モデルベースの擬似的なデータの作成方法について検討してきた。消費支出については、基本属性の構造に応じた支出などのデータの作成に関する研究を進めてきたが、これに加えて世帯類型などの属性に応じて消費の内訳など、合計が1になる制約のあるデータについて、組成データ解析の方法を適用したデータ生成手法の検討結果を報告する。

キーワード：公的統計ミクロデータ、擬似ミクロデータ、合成データ、
組成データ解析

ローカル AI による公的統計マイクロデータ集計 とハルシネーションの検証 — カンボジア CSES 個票データを用いた実証

立正大学 白川 清美

カンボジア社会経済調査（CSES）の個票データを、外部に接続しない閉域環境のローカル AI に処理させた試みを報告する。自然文の指示から集計仕様とコードを生成させ、集計の実行は決定論的な処理系に委ねる構成により、マイクロデータを外部へ送信せずに集計・分析が行えることを示す。あわせて、ローカル AI が生成する集計値・変数定義・結果解釈にどのような誤り（ハルシネーション）が生じるかを原データとの突合で検証し、その検知手順と実務上の留意点を述べる。

キーワード：ローカル AI（オープンウェイト LLM）、公的統計マイクロデータ、
CSES（カンボジア社会経済調査）、ハルシネーション検証、
閉域環境での秘匿処理

官と学のデータアーカイブを往来して（仮題）

総務省統計研究研修所 榎田 直木

公的統計と学術的社会調査の双方のデータアーカイブの従事経験を振り返りつつ、オープンサイエンスや改正個人情報保護法などによりデータの利用可能性がこれからも広がっていく中で望まれる情報倫理について、データスチュワード、データ利他主義、データリテラシー等の観点から、私見を交えながら報告する。

キーワード：EBPM、EHDS、データスチュワード、データ利他主義、
データリテラシー